

20191007

自立相談支援機関との連携

沖縄県労働者福祉基金協会

那覇市パーソナルサポートセンター

名嘉 泰

-
- ◆何を連携するのか？
 - ◆誰が連携するのか？
 - ◆誰と連携するのか？
 - ◆いつ連携するのか？
 - ◆どこで連携するのか？
 - ◆なぜ連携するのか？

1. 目標（事業利用者数）

◆平成31年度事業利用者数の目標数値

	沖縄県	沖縄市	豊見城市	うるま市
生活困窮者（名）	35名	17名	9名	15名
被保護者（名）	35名	－	9名	15名

◆目標設定について

人員配置基準では職員 1 人あたり支援対象者数15人以上となっており、平成31年度配置職員8人×15人（1人あたりの対象者数）＝120名となる。

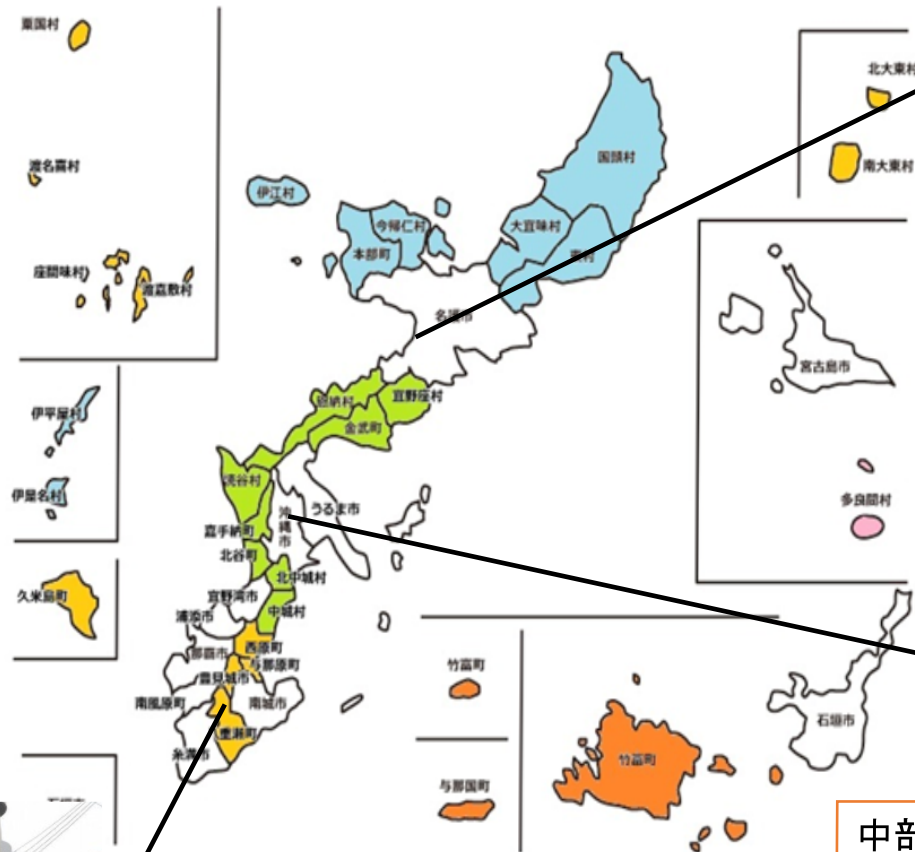
しかし、平成30年度から継続支援を必要とする利用者（支援6か月～1年）が15名程度存在し、それらを120名に加え135名という目標値とした。

各自治体の目標値の算出方法としては、人口規模に合わせて利用者数を算出。今年度の実績と併せて両事業10万人あたり10名とし、継続支援を必要とする利用者を加え算出した。

これらの目標を達成するよう努めるとともに、北・中・南部、離島という各地域の特性に合わせた地域開拓を通して、本事業を必要とする人の掘り出しや把握、そして利用者のそれぞれの自立に向けたプログラム実施等の支援を行っていく。

2.実施体制・場所について

実施体制



北部：1名
名護市
北部福祉事務所近く



中部：5名
沖縄市美原
中部福祉事務所近く
共同実施市：うるま市、沖縄市



南部：3名（責任者1名）
南風原町
南部福祉事務所近く
共同実施市：豊見城市

3. 対象地域における生活困窮者及び被保護者の特性

従来の雇用施策の支援になじまない

1. 就職の準備ができていない

(低学歴、長期離職者、昼夜逆転、対人スキルの未熟、自己理解不足によるミスマッチなど)

2. 他者・社会との関わりに不安を抱えている

(ひきこもり、障害ボーダー、メンタル不調、依存症、自己肯定感が低いなど)

3. 常識の醸成や教育的配慮を必要とする

(若年無業、未成年、発達障がい、知的障がい、決まった時間に就寝起床できないなど)

4. 複合的な課題で生活リズムが崩れている

(不登校、ひきこもり、若年無業、未成年、精神的・物理的な理由で外出が困難など)

5. 自尊感情や自己有用感の喪失

(いじめ、トラウマなど)

就労準備支援

● 基礎能力の形成

- ・ あいさつ、生活リズムが整う
- ・ 食生活や身だしなみなどが整う
- ・ 「報連相」、電話での受け答え
- ・ 自分の想いを伝える など

● 自己肯定感の再構築

- ・ 自分に自信がつく
- ・ 安心感を得る
- ・ 挑戦する勇気が出る
- ・ 必要とされている感覚を得る など

● 不安感の軽減

- ・ 集団の場にいられる
- ・ 外出が怖くない
- ・ 体調や体力を自覚する など

● 社会参加意欲の向上

- ・ 就労意欲の向上
- ・ 地域活動への抵抗感減少
- ・ 他者交流への慣れ など

既存の
就労支援サービスが
活用できる状態

繋ぎ戻し

主な関係機関

- ・ 生活困窮自立相談事業の就労支援員
- ・ 生活保護の就労支援員

- ・ 就労訓練事業所
- ・ ハローワーク
- ・ 沖縄県お仕事応援センターの支援員

集団アプローチ

個別アプローチ

4-1.就労準備支援プログラムの作成について

目 的

本事業は、就労に必要な実践的な知識・技能等が不足しているだけではなく、複合的な課題があり、**生活リズムが崩れている、社会との関わりに不安を抱えている、就労意欲が低下している等**の理由で就労に向けた準備が整っていない生活困窮者（生活保護受給者）に対して、一般就労に向けた準備としての**基礎能力の形成からの支援**を、計画的かつ一貫して実施することを目的とする。

就労準備支援事業3つのアプローチの仕方

▶ 面 談（生活場面における面談）

- ⇒ 傾聴 その人の思い・考えをきく
- ⇒ 伝達 こちらの思い・考えを伝える
- ⇒ 整理 問題・課題をいっしょに整理する
- ⇒ 発見 問題・課題を解決する方法を一緒に考え見つける
- ⇒ 実現 解決の実現に向けていっしょに動く

▶ 伴 走

- ⇒ 同行 企業見学や各種手続きに同行する
- ⇒ 訪問 状況を確認するため居所や地域へ訪問する
- ⇒ 送迎 プログラム参加する人の外出に対するハードルを下げる
- ⇒ アウトリーチ 居所を訪問、外出を含む自立のきっかけをつくる

▶ プログラム（個別/集団）

- ⇒ 日常生活自立 / 社会生活自立 / 就労自立



4-2.就労準備支援プログラムの作成について

▶ 日常生活自立

- ⇒ 定時開始による生活リズムや身だしなみ等の習慣づくり
- ⇒ 体力確認、体力づくり、フィールド作業、美化作業
- ⇒ 読み書き、家計管理など基礎的なワーク
- ⇒ 状況に応じてモーニングコール等での積極的な促し

▶ 社会生活自立

- ⇒ 対人コミュニケーションスキルに関するワーク
 - ・ SST、カードスピーチ、伝達ゲーム等
- ⇒ 集団の中で協力し
 - ・ 協働ゲーム、パン作り等
- ⇒ ボランティアなど社会と関わりを促進する活動

▶ 就労自立

- ⇒ 今後の自立を計画するワーク
- ⇒ 資格や訓練、就職に向けた支援機関の情報提供
- ⇒ 企業見学、就労体験（清掃、農作業、軽作業、事務作業等）



就労準備講習 日誌

氏名 **☆☆☆**

2016 年 6 月 2 日 (金)	今日の講師: 岡田 先生
★具体的な流れ・内容 1. 自己紹介 2. 自己紹介カードの作成と発表 3. 目標設定 4. 発表	
★今日の目標 (今日の講習内容)について ・自分の将来の目標を明確にする ・目標達成のための具体的な行動計画を立てる	★目標の中で達成したこと ・自分の将来の目標を明確にした ・目標達成のための具体的な行動計画を立てた
★目標の達成状況 高い 低い どちらでもない	★できなかったこと ・目標達成のための具体的な行動計画を立てることができなかった
★スタッフから 今日、先生から「目標設定の重要性」について話を聞いた。目標設定は、自分の将来の目標を明確にし、目標達成のための具体的な行動計画を立てることで、目標達成の可能性が高まる。目標設定は、自分の将来の目標を明確にし、目標達成のための具体的な行動計画を立てることで、目標達成の可能性が高まる。	

● 3つの自立を実現するための訓練機能が組み込まれたプログラム

全体を通して最も大切なことは、生活リズムを整え強みを見出し就労に向けて確かな手応えを本人が感じ取ることであり、さらに、その基礎となる**自己肯定感・自己効力感の醸成**を促すべく、本人の状態に合ったプログラムで伴走して支援すること。

● 関係性を構築しながら「いま、ここ！」のタイミングを狙い展開していくアプローチ

4-3.就労準備支援プログラム詳細 1

週	内 容	時間	場 所	詳 細
1	オリエンテーション 事前相談・確かめ表 ウォーキング 清掃 面談 振り返り	2 1 3 3 適宜 2	室内 室内 事業所周辺 事業所周辺 面談スペース 室内	オリエ ⇒顔合わせ。こんにちは 事前相談など ⇒今の様子をいっしょに確かめよう ウォーキング・清掃 ⇒まずは体ならしと体力づくり 面談 ⇒何でも気軽にどうぞ 振り返り ⇒毎日の調子や目標をいっしょに確かめよう
2	花植え作業 ワーク① レク体操 フィールド作業 面談 振り返り	4 4 4 5 適宜 2	事業所周辺 室内 室内 農場 面談スペース 室内	花植え ⇒花植えて建物を飾ろう ワーク① ⇒字をゆっくりと丁寧に書いてみよう レク体操 ⇒ストレッチで体をほぐして、いろいろゲーム！ フィールド作業 ⇒畑で体を動かして野菜を作ってみよう 面談 ⇒何でも気軽にどうぞ 振り返り ⇒毎日の調子や目標をいっしょに確かめよう
3	ワーク②お金どうする？ ワーク③自他を認めること ワーク④こんな時どうする？ ワーク⑤カードスピーチ フィールド作業 面談 振り返り	3 2 3 1 5 適宜 2	室内 室内 室内 室内 農場 面談スペース 室内	ワーク② ⇒お金の出入り確かめて、やりくり上手になろう ワーク③ ⇒じぶんのこと伝えて、相手のこと聞いて ワーク④ ⇒人にうまく伝えるワザを身につけよう ワーク⑤ ⇒自己紹介ってこんなに簡単！オシャレって楽しい！ フィールド作業 ⇒畑で体を動かして野菜をつくってみよう 面談 ⇒何でも気軽にどうぞ 振り返り ⇒毎日の調子や目標をいっしょに確かめよう

4-3.就労準備支援プログラム詳細 2

週	内 容	時間	場 所	詳 細
4	ワーク⑥コミュニケーション ワーク⑦伝達ゲーム ワーク⑧協働ゲーム ボランティア フィールド作業 面談 振り返り	3 3 3 4 5 適宜 2	室内 室内 室内 依頼施設 農場 面談スペース 室内	ワーク⑥ ⇒言葉ではっきり伝えよう、楽しく伝えよう ワーク⑦ ⇒絵で伝えられる？文字で伝えられる？ ワーク⑧ ⇒他の人といっしょに力を合わせて助け合いながら ボランティア ⇒人のために何かやってみよう フィールド作業 ⇒畑で体を動かして野菜をつくってみよう 面談 ⇒何でも気軽にどうぞ 振り返り ⇒毎日の調子や目標をいっしょに確かめよう
5	ワーク⑤カードスピーチ ワーク⑨調理実習 職業訓練ガイダンス フィールド作業 面談 振り返り	1 7 3 5 適宜 2	室内 室内(実習室) 室内 農場 面談スペース 室内	ワーク⑤ ⇒自己紹介ってこんなに簡単！オシャレって楽しい！ ワーク⑨ ⇒みんなで手分けして作ってみよう、食べてみよう ガイダンス ⇒資格や技能を身につけて、そして仕事へ フィールド作業 ⇒畑で体を動かして野菜をつくってみよう 面談 ⇒何でも気軽にどうぞ 振り返り ⇒毎日の調子や目標をいっしょに確かめよう
6	企業見学 就労体験 グッジョブセンターツアー ワーク⑩想いのマップ 面談 振り返り 聞き取り相談 修了式	6 6 2 3 適宜 2 1 1	企業先 企業先 グッジョブセンター 室内 面談スペース 室内 室内 室内	企業見学 ⇒なるほどなるほど 就労体験 ⇒自分だったらどうやって働こうかな？ ツアー ⇒仕事の探し方おぼえて、ためしに探してみよう ワーク⑩ ⇒少し未来の自立した自分の姿を思い描こう 面談 ⇒まだまだ何でも気軽にどうぞ 振り返り ⇒最初の頃を思い出して。こんなに違うっ！ 相談など ⇒これからどうする？訓練？就職？ 修了式 ⇒おめでとうっ！

5-1. 支援プログラムの実施方法及びその考え方

1日の流れ

9:00 送迎 モーニングコールで関係性を構築。
送迎も生活場面面接の重要な機会。

10:00 プログラム開始
日誌記入（目標設定、参加目的の確認）
例：ウォーキング、学び直し、花植え

12:00 昼食 タバコ、雑談、将棋…
共に弁当を食べながらリラックス♪
そんな時こそ、本音が話せる瞬間。

13:00 プログラム再開
例：協働ゲーム、企業見学、職場体験
日誌記入（振り返り、達成感の確認）

15:00 送迎 疲れ具合や反応を聞くチャンス！
体力・精神面の状態に合わせて、
次の支援展開のキッカケを作る。

就労準備プログラム一覧

約50種類！

プログラム例		
ウォーキング	協働ゲーム	ハローワークへ行ってみよう
事前確かめ表	伝達ゲーム	求人票を見てみよう
学び直し	企業見学	福祉まつり参加
からだほぐし・卓球	原付講習	クリスマス制作
レク体操	IT社会を楽しむ隊-PC-	重機体験
おそうじ	こんなときどうする-SSST-	お金のワークショップ
報連相	職業訓練ガイダンス	マイ箸づくり
カードスピーチ	認め合うこと	ジモトを知ろう
就労体験～パン作り～	ジムに行く	救急救命講習
就労体験～うどん作り～	図書館へ行く	ドリームフォト～ONE×ONE～
就労体験～調理実習～	花植え	マナーセミナー～ONE×ONE～
就労体験～ポスティング～	お茶会	VRTカード～ONE×ONE～
就労体験～古紙回収～	就労体験～畑作業～	ヘアカット
企業実習説明～ONE×ONE～	ボランティア作業	デコバリュ
就労体験～学食調理～	就労体験～フットパルク～	就労体験～印刷業～

個別状況、地域課題に応じたプログラム提案



いつでも参加できるプログラム配置

就労準備プログラム お茶会

新年を迎えました。
気持ちを新たに、みんなでお茶でもし
ころにゆとりを、お話しをしましょう

初めてでも大丈夫です☆

お茶会、お菓子作り、
お話しなど、お気軽に参加してください

就労準備プログラム こんなときどうする？

～Social Skills Training～

顔みごとが苦手…
助けられない…
雑談が続かない…
電話で話すのが苦手…
挨拶されると困る…

生活していく中で、
人と関わる場面はたくさんあります。
それが苦手な方は、練習をすることで、
スムーズにできるようになります。

特性や課題に応じた単発プログラム

◆自主提案（プログラム実施時の食事提供と送迎）

- ・食事バランスが課題となっている利用者が多くおり、その支援として法人の費用で弁当提供を行う。単に弁当の提供ではなく、支援員も同じ弁当を食べながら話すことで、通常のプログラムでは話さない（話せない）利用者のニーズを引き出すなど、生活場面面接としての効果がある。また、健康管理の把握にも繋がる。
- ・外出意欲低下の要因の一つである移動距離が、プログラム参加の妨げにならないよう送迎を実施。参加のハードルを下げる効果がある。

5-2.支援プログラムの詳細

事例①

働きたいけど・・・体力も、経験もないから不安。自分に合う仕事が見つからない。

プログラム実施方法

- ・個別課題に応じてプログラム内容を変更
- ・参加者同士の集団による相互作用
- ・その日の変化や特性を毎日スタッフで振り返り、次のアプローチを検討する
- ・障害者福祉サービスや他機関の強みを活かしてプログラムを共同実施

支援経過

初回の状況

- ・高血圧
- ・長期離職(20年)
- ・体力への不安
- ・就労への不安
- ・想いの発信が苦手

就労準備プログラム

(個別アプローチ)

- ・SSTによるコミュニケーション訓練を行い、自分の想いを伝える機会を作る。

(集団アプローチ)

- ・連続講習への参加によって、集団でのコミュニケーションスキル、知的能力や認知特性などを確認。
- ・作業スピード、集中力や持続力など、就労に必要な能力を見極める。

短時間就労で就職決定

企業実習



就労体験

他機関の動き

● 沖縄市

就職・生活支援パーソナルサポートセンター

- ・同居娘との連絡調整
- ・病院受診のための家計状況を確認
- ・就労段階で就労支援員に繋ぎ戻し
→おしごと応援センターOne×Oneで企業実習へ

● おしごと応援センターOne×One

- ・自宅近くの求人情報から、本人の希望に合った企業を実習先として開拓
- ・本人の体力に合わせて業務分解し、採用条件を緩和

多様なプログラムを通して、課題や不安と向き合う（整理する）過程をつくる



清掃体験



協働ゲーム



小物づくり体験



うどん作り

本人の変化

- ・少しずつ前に出て話す事ができるようになる。
- ・自己肯定感が上がり緊張感が減少。
- ・講習中に倒れたり体力低下の課題が明らかとなり、病院受診を優先する必要性を自覚。
- ・体調コントロールをしながら企業実習を経て、就労意欲が向上。

5-2.支援プログラムの詳細

事例②

「やりたいことは…ない」「将来が見えなくて不安」 社会的ひきこもり状態

就労体験（例）

- ・障害者就労継続支援 A 型事業所（施設清掃、木工作業、手工芸）
- ・農園（農業、出荷作業）
- ・介護支援事業所（施設清掃、洗濯）
- ・食堂（配膳、食器洗い、調理補助）
- ・製造（製本）
- ・その他（家電解体、接客）

体験先開拓方法

- 事業を超えた連携
（保護課就労支援員、社協、生活困窮者自立支援事業、就労訓練事業、沖縄県パーソナルサポート事業、行政）
- 近隣の企業へ直接アプローチ
- 知人や身内からの紹介
- 業務の切り出し
（古紙整理、倉庫内整理、洗車、棚作成、美化作業、事務作業など）

支援経過

初回の状況

- ・社会的ひきこもり
- ・集団への苦手意識
- ・強い自己否定感
- ・適応障がい
- ・解離性症状
- ・抑うつ症状
- ・無気力

就労準備プログラム

- ・パン作り、小物づくり、盛り付け作業、食品仕分け、など、多様な就労体験を通して就労能力や精神的症状を確認。
- ・作業中の工夫や、効率アップを促し、成功体験を通して自己肯定感が向上。
- ・臨床心理士の活用
（心の整理をしながら、就労への不安感を軽減）

就労移行支援事業所へ通所

「フルタイムは難しい・・・けど、福祉的就労ならやれるかも！」



フィールド作業



パン作り体験



仕分け作業



盛り付け作業

本人の変化

- ・社会参加意欲が向上し、事前準備を手伝うなど、自主的な動きを行う。
- ・対人不安の軽減によりグループワークや協働作業でも協調性が見られた。
- ・他者との関わりや講習に対して「楽しい」と感情を表現するようになった。
- ・就労体験や心理面談を通して心身の状態を把握し福祉サービス利用を決断。

5-2.支援プログラムの詳細

事例③

若年、不登校、中卒、ひきこもり、就労経験なし・・・社会参加意欲が低い。

アプローチのポイント

- ・本人の関心事に関心を寄せる
- ・簡単な役割を与え成功体験を増やす
- ・「強み」や「得意」を引きだし、本人フィードバックする

支援中の連携

● 本人の状況把握

- ・福祉事務所、町村社協と連携
- ・母親を交えたケースカンファ
- ・本人の変化について、他の支援機関と密に情報共有し役割分担。
- ・他機関の支援員にプログラム参加を促し、本人との信頼関係を構築。

● 関わった機関

- ・南部福祉事務所
- ・南風原町社協
- ・就労体験先（NPO法人フードバンク 2hハーベスト、就労継続支援B型事業所、農業、リサイクル業）
- ・企業見学先（製造業、販売業）
- ・沖縄県おしごと応援センタOne×One
- ・労福協就労サポートセンター

支援経過

初回の状況

- ・若年
- ・高校中退
- ・ひきこもり
- ・進学/就労への意欲が低い
- ・対人コミュニケーション不安
- ・携帯依存

就労準備プログラム

（個別アプローチ）

- ・本人の興味に関心をもち、信頼関係を構築。
（同じゲームをダウンロードし一緒に始める）
- ・「卓球とか体を動かしたい」「原付免許とりたい」の発言から、一緒に計画を立てプログラム化
- ・信頼関係を築き、社会的スキルの形成を促す。
（携帯マナーや報連相など）

（集団アプローチ）

- ・連続講習参加により、生活リズムを整える。
- ・講習中の準備、片付けを促し自己有用感を高める。

他地域食堂でアルバイト

大人への抵抗感の減少、社会参加の増加



カイワレ植付体験



カイワレ販売体験



フィールド作業



パン作り講習

本人の変化

- ・挨拶や相手の目を見て話すなど、コミュニケーションスキルの向上。
- ・携帯を触る頻度が減少。周囲への声掛けやリーダーシップなど、積極性が増加。
- ・原付免許取得したことで、アルバイト決定！

6. 法に基づく各事業および福祉事務所との連携

▶ 県及び共同実施市の自立相談支援機関との連携

- ⇒ 各地区の**支援調整会議**に参加。地域特性や個別課題を把握。
- ⇒ 就労準備支援の視点から、**個々のケース状況に応じた支援プログラムを提案**。
- ⇒ 「準備に繋ぐタイミングや説明が難しい」自立相談支援員との**インテークに同席**。
本人の課題背景や生活状況を把握しながら**早い段階で関係性を構築**する。
- ⇒ 送迎や講習中の声掛けなどの、局面に応じた具体的な連携。

▶ 家計相談支援事業・就労訓練事業との連携

- ⇒ お金に関するセミナーを就労準備プログラムの中で実施。
- ⇒ 就労訓練登録企業から就労体験先を選定。

▶ 個別報告書

- ⇒ 就労準備支援期間において、一定の支援効果が出る、または支援の局面でプランが変更した際は、個別報告書にて「支援過程における本人の変化／強みと課題／プログラム提供内容／今後の方向性」と見立て」などを記載し、**支援調整会議や個別のケース共有会議を用いて各事業担当者と情報共有**。
- ⇒ プログラム実施中の参加者の表情や参加態度を写真で共有し、自立相談支援員や保護課支援員のアセスメントに必要な特性を共有。 「こんな表情見たことない！」

◆ 自主提案（福祉事務所や自立支援事業及びその他事業との一体的実施に向けて）

【事業横断型アプローチ】

生活困窮者自立支援事業及び被保護者就労支援事業の就労支援員、就労訓練事業担当者及び認定事業所等、さらには沖縄県パーソナルサポート事業やハローワークなどの就職支援員と、事業横断型チームを構成。利用者の段階に即した支援を、主担当と副担当をスイッチしながら継続的に支援する。また、企業（事業所）アプローチについても連携してこれを行う。

【インテーク段階から同席】

保護課支援員や自立相談支援員の要望に応じて、支援窓口に出向き初期インテーク段階から同席することで、就労準備支援員が本人の課題背景に合わせたプログラム提案を直接的にアプローチを行う。

【被保護者対象者の掘り起こし】

被保護者においては、保護課ケースワーカーや就労支援員との連携が不可欠。今年度は、うるま市被保護者の本事業活用による支援効果がハッキリと表れたことで、益々被保護者へのアプローチの有効性が証明されたが、福祉事務所内での職員異動や周知不足により、まだ本事業の支援特性や理解が不足している課題がある。引き続き、保護課向け事業説明会の開催や個別ケースについてのこまめな共有を行うことで、本事業の理解を広めるとともに対象者の掘り起こしをしていく。

7. 【プログラムづくりのポイント】

★ 人から出発すること

- ⇒「支援メニュー」「支援プログラム」という言い方
- ⇒出来上がったもののように思ってしまうと、
- ⇒人をメニューやプログラムに合わせがち
- ⇒でも、人はそれぞれに多様で、課題は各人各様
- ⇒だから、人から出発してそれぞれの支援を組み立てる
- ⇒同じメニューでも、人によって意味や目的は異なる
- ⇒だから、人とメニューの組み合わせも多種多様
- ⇒メニューの実践方法も多種多様

そのうえで、

- ★ 「できる」を一緒に見つけていくこと
- ★ 「できる」を一緒に作り出していくこと

【失敗例】

- ・企業実習、挨拶行って実習組んで、でも参加する人がいない。。。
- ・企業見学、積極的に押したのに、相手が引いてこなくなってしまった。。。
- ・「就労準備→生困就労支援→生保就労支援→就労移行支援」の流れの果てに怒り出した。。。
- ・パソコンセミナー、これは自分には簡単すぎると言って、参加しながら周りの邪魔。

どうしてだったんだろう・・・。。。

【成功例】

★ ハルサーセミナー

★ お仕事応援企画

★ 原付き講習

【成功例 1】

★ ハルサーセミナー

畑作業→収穫→出荷→販売→収入

1. 畑作業（収穫や出荷の準備）
2. 収穫
3. 出荷
4. 販売（道の駅や直売所など）
5. 収入（自分で働いた結果が自分に還ってくることを実感する）

⇒◎それぞれの作業で参加者それぞれが得意不得意を手に入れる



1. 畑作業（収穫や出荷の準備）



2. 収穫



3. 出荷の準備



4. 販売

【成功例 2】

★ お仕事応援企画 （2日で構成）

【下ごしらえ】

1. 受け入れ側と密につながる（現に求人がある所。地元ならではの必要性や継続性が高い。沖縄だと観光産業など。例：ホテル客室清掃）
2. その求人に興味のある参加者を集める（集団凝集性）

【1日目】

1. 求人先を紹介する
2. 現に働いている人の話を聞く（参加者たちと同様に生活困窮や生活保護だった人）
3. 求人先の話を聞く（現に働いている人の働きぶりを中心に）

【2日目】

1. 求人先を見学する
 2. 希望者はその場で面接に入る
 3. 参加者に合わせて仕事を作り変える（日数や時間数、業務分解と再構成）
 4. その場で採否結果を出す
-

お仕事応援企画

見逃せない
2days

PRESENTS BY
なは市ほっとプラス

お仕事応援企画

清掃のお仕事には魅力がいっぱい♪
ビル建物の清掃管理業務を運営している沖縄ビル管理㈱の
採用担当者が現場のことや詳しく聞くことができちゃう。
あなたの「働く」想いにプラムする特別な2days が訪さる。



1day

2day



就職活動準備セミナー

◆開催日時
平成29年6月29日(木) 10:00 - 12:00

◆内 容
沖縄ビル管理(清掃)の求人票の見方や解説!!

◆場 所
なは市ほっとプラムセミナー室
(官公労共済会館地下1階) 役所集合9:45

企業説明会 and 面接会



◆開催日時
平成29年6月30日(金) 10:00~12:00

◆内 容
お仕事内容や採用担当者が説明。
働くイメージを持って面接にチャレンジ!!

◆集合場所
なは市ほっとプラム(市役所2F受付窓口)

合同お仕事応援企画 ～Job Storyは突然に～

Job
storyは、
突然
新しい誰かと出会う。
に。

お仕事応援企画

就労支援に本気で関わっている支援員があたり、
これまでにない新しいスタイルで人と人をつなぐ、あなたの「はたらく」を応援する特別な合同企業面接会です。

SUPPORT 1/ 準備セミナーで心の準備
SUPPORT 2/ 支援員がいっしょに応援
SUPPORT 3/ 働いていっしょ先輩の講話

2018
11/9 金
準備セミナー①
10:00～12:00
準備セミナー②
14:00～16:00
※同じ内容になります。

企業面接会準備セミナー

■場所 新ハッジョブセンターおきなさ
那覇市泉崎1-20-1 新那覇パルクミナル6階

■内容 ●加さず企業を知ろう！
求人票の見方や解説！

問い合わせ先
公益財団法人 沖縄県労働者福祉基金協会
就労サポートセンター 受付時間 平日9:00～17:00
※9:00～9:21 沖縄県那覇市泉崎1-20-1 新那覇パルクミナル6階
☎ 098(866)-7845 FAX 098(864)-7835

2018
11/12 月
13:30
▶16:30
受付 13:00

企業説明・先輩のこえ・相談・面接会

■場所 沖縄県産業支援センター 大ホール
那覇市字小嶺1831-1

■対象 「はたらく」に向かっている人

■企業 JAおきなさ、マドナルド、日清医療食品(株)
沖縄美装管理(株)、沖縄ビル・メンテナンス(株)
沖縄ビル管理(株)、(社)99つみ福祉会
※参加企業については、変更する場合がございます。

【成功例 3】

★ 原付き講習 (4日間コース)

【1～3日目】

お勉強・模擬試験・解答・解説

【4日目】

本試験受験

(送迎して一緒に結果を確認、場合によって受験料貸与or調達)

★利点：

- ・身分証が取得できる
- ・移動手段を手に入れられる
- ・履歴書に書けることが増える
- ・生活にリズムが生まれる
- ・内面に自信が生まれる
- ・仲間ができたりもする

原付き講習

H29 年度 就労準備講習



原付免許試験直前講習

受講料無料!

運転免許がなく、就職活動や通勤が困難な方を対象に
「原付免許取得直前講習」を開講し、就職活動の支援を行います!

①受講資格

- ☆就職意欲があり、原付免許取得後、就職活動に活かしたい方
- ☆16 歳以上で、日常の会話を聴取出来る方
- ☆両目 0.5 以上、または一眼が見えない方については両目の視野が左右 150 度以上で、視力が 0.5 以上 (眼鏡・コンタクトレンズ可、赤色・青色・黄色の識別ができる事)



②開催日時・内容

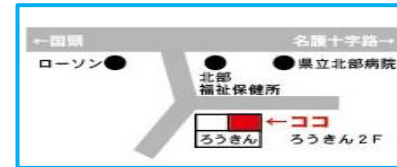
7月26日(水)・28日(金)・31日(月) 8月1日(火)～3日(木) 10:00～15:00 (適宜休憩)	・テキスト、講義、インターネットを活用して説明・模擬問題を解く。 ・講義最後の1時間は、本番同様30分間の模擬テストを実施。 その後、解答・解説。
8月4日(金) 7:00～11:00 (移動・受験) (自宅場所・送迎により時間異なる)	・8時30分までに会場着◎、社用車にて受験者と運転免許センターへ移動。 ・受験開始。

定 員: 10 名 ※定員に達しだい締め切り

募集期間: 2017 年 7 月 26 日(水)・28 日(金)

31 日(月)・8 月 1 日(火)～8 月 4 日(金) 計 7 日間

実施場所: 共済会館(官公労) 2F 会議室



【お問い合わせ・お申し込み】

沖縄県 就職・生活支援パーソナルサポートセンター 北部

〒905-0017 名護市大中 3-9-1 官公労(うきさ) 2F

TEL: 43-0240 / FAX: 43-0260 (担当: 新里・赤嶺)



主催・共催: 沖縄県就職・生活支援パーソナルサポートセンター 北部 TEL: 43-0240
沖縄県おしごと応援センター | One-Stop-Service 中部サテライト TEL: 098-923-0078

根底には「自己肯定感」と「自己有用感」

★他者からの後押し

★少しずつの手応え

★他者からの感謝

★自分への信頼

⇒それが内面化されていく

「私は受け容れられている」

「私はここにいていい」

「私がやることを喜んでくれている」

「私にもできることがある」

【就労準備支援】

いっしょに、きっかけに立ち会うこと

参考：

就労準備支援事業の多様な対象者別の効果とその支援手法に関する調査研究事業

https://www.murc.jp/report/rc/policy_research/public_report/koukai_190422/